

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：24506

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22651090

研究課題名（和文）

中国移民の移動ハブ地における史料の残存と蓄積の調査研究

研究課題名（英文） Research Study on the Historical Materials remained and accumulated at the hubs of Chinese International Migration.

研究代表者

園田 節子 (SONODA SETSUKO)

兵庫県立大学・経済学部・准教授

研究者番号：60367133

研究成果の概要（和文）：

カナダ太平洋岸、アメリカ西海岸、カリブ海地域と繋がるニューヨーク、これら3つの地域における現地華僑の中国語歴史史料の種類や分量、内容を調査し、各地域における中国人の国際移動において最終目的地や他地域への移動のハブ地といったメカニズムを考究した。また史料が残され保存された歴史的・社会的背景を調べ、国策や国家行事、住民運動、大学や歴史博物館の学術教育啓発活動などを抽出し、現地中国系の過去と最新の動向を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

Based on the archival researches about types, volume and contents of the Chinese historical materials on overseas Chinese in three areas of Canadian Pacific Coast, West Coast America, and New York with the Caribbean, this study has illustrated the mechanisms of Chinese international migration: there are the cities operating as the hubs of Chinese migration and the cities considered as their ultimate destinations. Also through the custodial history of those historical materials, this study has revealed the positive involvements of the Chinese residents in North American cities in past and present. These involvements have been seen during implementing the national policies, state occasions, political and cultural residential movements, academic, educational or enlightenment activities by universities and the overseas Chinese historical museums in their residential countries.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	0	900,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	480,000	2,980,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：史料論、華僑、ひとの移動、北アメリカ、地域性

1. 研究開始当初の背景

南北アメリカにおける現地華僑の歴史研究を進めてきた2009年までの過程において、

現地の公刊・未公刊史料を渉猟してきた。その遂行中、複数の調査地でおこなった史料収集で、基礎調査の段階から華僑史料の地域差

の大きさを体感し、とりわけ現地中国語史料の種類、分量、残量・保存・公開状態への見識を深める必要性を感じた。この地域差は、

(1) 中国人の国際移動の中継地にも多く重要史料が残る、(2) 史料の価値を知り、自覚的な保存活動をした歴史学者が中国系社会にいたか否か、(3) 現地主流社会側がなんらかの関心から中国系住民の包括的調査を実施した過去があるか否か、(4) 急激な政治的・体制的变化の有無、(5) 記録的な災害の有無など、地域の事情を反映した要因によるものであった。華僑史料の背景に見えた、20世紀南北アメリカへの中国人の移動の様態とそれに影響した地域の具体的なファクター、例えば人種概念の誕生と変遷、近代国民国家の発展、冷戦、革命、アジア系アメリカ人運動、中華意識などを十分に議論できず、調査枠を設ける必要性を見出した。史料保存から地域性と華僑史の体系的把握をおこなう試みは、国内外でも初めてのアプローチである。

2. 研究の目的

華僑史は、史料の限界を理由に個別の地域社会史研究の域にとどまる傾向が強い。しかし、史料の背景や過去の保存運動に反映された地域の特徴を明らかにする視角とアプローチをとることで、新たな地域史像として体系的に把握することを期待できる研究領域でもある。本研究は、華僑史料論を通してこの体系的把握に挑戦したものである。南北アメリカの中国人の移動史において最重要地・最終目的地と移動の中継地点「ハブ地」はどれかを分析・特定し、その後それらの要地に残る華僑史料の種類や状態を把握する。同時に、現地の史料の発見、保存、公開、編集にかかわる過去の社会的事情や人々の生活を明らかにする。史料保存に反映された地域性を論じ、この視座から南北アメリカ地域史を提出することを目指す。

3. 研究の方法

(1) バンクーバーを調査の要とする「カナダ太平洋クラスター」、(2) サンフランシスコを中心とする「サンフランシスコ南下クラスター」、そして(3) ニューヨークを要地とする「ニューヨーク・クラスター」を設定した。クラスター化した各地域を調査地に設定し、20世紀に南北アメリカにおける中国人の国際移動に関して、最重要地・最終目的地、ならびにその移動の中継地点「ハブ地」を見定めた。3地域では現地の関係機関が所蔵する華僑史料を調査し、その種類・分量・編集の動きとそれを主体的に担った団体や個人について、文献を分析した。さらに全体像を

把握するために文献調査と並行して現地華僑史料に造詣が深い研究者の専門的助言を得る、関係者のインタビュー調査をおこなうなどの手法でも分析を進めた。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

①「カナダ太平洋クラスター」における移動のハブ地は、20世紀初頭にビクトリアとニューウェストミンスター、そして20世紀を通じてバンクーバーがその役割を果たしていた。ブリティッシュ・コロンビア大学の複数の付属図書館が所蔵する華僑史料の調査では、1970年代初頭における多文化主義政策の一環として、同大学が展開した僑団史料の調査収集活動ならびに僑領の口述記録計画が現在のコレクションの基礎を形成し、その後のカナダ華僑研究の進展を促したことを明らかにした。市街地チャイナタウンでは、華僑運営の複数の資料館・博物館・図書館を訪問して新史料の保存・公開活動を調べ、複数の中国系カナダ人リーダーには文化振興運動の実践に関してインタビューした。郊外の公立施設が所蔵する華僑史料の調査とインタビューからは、カナダ人ヘリテージプランナーや学芸員の努力によって華僑史料が廃棄を免れ、保存・公開された背景を明らかにした。そして、カナダ中国移民の歴史保存活動は、中国系の研究者や活動家の主導で中国系住民自らが組織的におこない、公開媒体としてウェブを多用しつつ、多文化主義の実践と直結した啓発運動であると結論した。

②「サンフランシスコ南下クラスター」においては、サンフランシスコとポートランド、そしてロサンゼルスに関する華僑関連史料について、サンフランシスコとポートランドで現地調査を実施した。ポートランドでは、オレゴン歴史協会やポートランド市立大学で所蔵資料を調査し、僑団史料のほか市の開発計画書、写真資料や学位論文など関連資料の内容や分量、年代などから、当該地における中国移民社会の実態と関連研究の進展について調査した結果、サンフランシスコがハブ地、ポートランドは移動してきた中国移民の止住地であると解った。またポートランド中華会館で歴史部の代表者のインタビューとその協力を得て、同会館が現地華僑史の編集、博物館の設置、中国人墓地保存運動の主導を担うなど、内部の歴史保存に取り組んできた実態を明らかにした。サンフランシスコでは、大学所蔵資料から過去におこなわれた史料編纂の作業やその編者情報を整理し、1970年代から中国系アメリカ人歴史家個人や団体が華僑史料の収集保存をおこなったことを明らかにした。また美国華人歴史協会

を訪問し、中国移民史を中国系住民にどう表象しているか、展示や資料から分析した。

③「ニューヨーク・クラスター」の調査では、ニューヨークがアメリカ東海岸とカリブ海地域を結ぶハブであり、さらにトリニダード・トバゴ共和国のポートオブスペインもハブとして機能していたと結論付けた。アメリカ東海岸での現地調査では、ボストンとニューヘイヴンでアイビーリーグ校の華僑関連資料を調査し、ニューヨークのアメリカ華僑華人博物館にて現在の中国系住民がどのように中国移民史をエンパワーメントに用いているか調査した。ポートオブスペインでは国立史料館の中国語新聞史料の分量、年代、内容などから、トリニダードは、カリブ海とカナダ、ガイアナ、ジャマイカなど旧英領地域やイギリス、アメリカといった、言語文化の基層が同じである遠隔・近接地域への中国人の移動のハブであり、また国民党の積極的な僑務が展開しコミュニティが分裂した過去もあったことを明らかにした。またトリニダード中華会館関係者へのインタビューと開示資料から、現在の現地生まれの華僑のプレゼンスの高まりは、2006年の国家行事において彼らが主導を取った諸イベントが成功したことが契機になっていると解った。

(2) 成果の国内外における位置付けとインパクト

この研究は、現存する華僑史料の周辺状況、過去の保存や編集のうごきやそれを担った個人の活動・思想を、華僑史と現地理解の中心に置いている。国家や知識人が資料の保存と編纂を担う文化的政治的伝統がある中国や台湾と異なり、海外華僑社会に残る中国語資料の保存と編纂は、中国系・非中国系を問わず、個人レベルの努力に帰するところが大きい。その努力の後ろには、華僑の移動性の高さ、主流社会が華僑に向ける認識、中国と居住国との国際関係、華僑アイデンティティの変容など、近現代のグローバルな潮流と居住地固有の地域性が、重層的に横たわっている。それゆえにこの研究は、遂行中に従来光が当たらなかった人々の活動に光を当てることになり、コミュニティの啓発のために歴史保存に努力した中国系の歴史家やソーシャルワーカー、学芸員などの役割も明らかにした。

調査結果は国内の研究会や学会で発表したのみならず、アメリカ文化人類学会やオーストラリアアジア学会など、英語圏の学会年次大会で積極的に英語発信し、そこでの質疑応答を経て議論や分析視角を深化することに努めた。バンクーバー市政府の委員会でも発表の機会を得られ、政策提言に本研究の一部を活かすこともできた。活字化も徐々に進

めている。調査中に収集した新刊書籍については、日本の学会に紹介する価値あるものを学会誌に書評論文として発表した。ここでは、北米華僑の資料保存とコミュニティ研究の進展など、今回の調査中に明らかになった重要なポイントをまとめて紹介した。カナダやアメリカ西海岸で確認できた歴史運動は、『中国年鑑』など、流通経路が広い専門出版物に情報を整理して活字発表した。市民講座でも本研究の調査結果を踏まえた内容で講義し、一般市民に研究を還元した。

(3) 今後の展望

蓄積された研究結果の活字化に集中する。同時に本研究の成果は、①南北アメリカ各地の中国語華僑史料情報、②現在の中国系の歴史保存運動、③カリブ海地域の中国移民研究、そして④国際移動におけるハブ地と最重要地ならびに最終目的地という地政学的研究、以上の4方向に発展することができると考える。なかでも、各地の中国系が自らのコミュニティを強く意識する「共同性」を持ちながら歴史保存運動を展開している現状は、新たな地域研究のテーマとなり得る。これを通して、中国移民史が現地中国系住民によって具体的にどのように活用されているか、さらに深められよう。また本研究の遂行中に、カリブ海地域の中国移民史研究はこの10年の間に英語圏でもっとも進展した領域であると解ったが、その動きの中にあっても、アメリカ東海岸とカリブ海地域を移動する中国移民の国際移動に焦点を当てたものは少なかった。成長中の研究領域に、日本人研究者として国際的に参入するには、こうした視角をもって臨みたいと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 園田節子「書評論文 Him Mark Lai, *Chinese American Transnational Politics*, Urbana: University of Illinois Press, 2010, 280p.」『華僑華人研究』9巻、2012年、pp. 149-155. 査読無

[学会発表] (計12件)

1. 園田節子「南北アメリカ近代華僑の地域間コミュニケーションから考える『地域』」ラテンアメリカ学会第34回年次大会シンポジウム「ラテンアメリカ研究の射程」、埼玉県草加市・獨協大学、2013年6月2日
2. 園田節子「歴史を残すことの意味：カナダの中国系住民の歴史運動」公開講座「越境するアジアの人と多文化共生」第3回、

兵庫県神戸市・大学共同利用施設 Unity、
2013年2月16日

3. 園田節子「『宋玉梅 米州致公堂と孫文』
へのコメント」村上衛共同研究班近現代中国
における社会経済制度の再編、京都市・京都
大学人文学研究所、2012年12月14日

4. Setsuko Sonoda, Historical
Re-examination of Transnationalism before
a Regime Change: Transnational Politics
Practiced in the Chinese Communities in
the Americas before 1911, American
Anthropological Association 111th Annual
Meeting, San Francisco Hilton Hotel, San
Francisco, California, the United States of
America, November 11, 2012.

5. Setsuko Sonoda, Self-Reorientation and
the Preservation of Historical Sources on
the Chinese in Vancouver and Kobe,
Chinatown Historic Area Planning
Committee, the City of Vancouver, Chinese
Cultural Center, Vancouver, Canada,
September 11, 2012.

6. Setsuko Sonoda, Forming the Modern
Immigrant Social Sphere on Distant
Shores: The Transnational Nation State in
Early Chinese Communities in the
Americas in the Nineteenth Century, Asian
Studies Association of Australia 19th
Biennial Conference 2012, The University
of Western Sydney, Parramatta, New
South Wales, Australia, July 11, 2012.

7. 園田節子「近代における海外移動者のコ
ミュニティ形成と国家の越境：改革・新社会
階層・ナショナリズムにみる共時性」海域ア
ジア史研究会、大阪府・大阪大学、2012年1
月29日

8. Setsuko Sonoda, Historiography and
Historicity of the Chinese in British
Columbia: Self-Reorientation and the
Preservation of Historical Sources,
American Anthropological Association
110th Annual Meeting, Montreal, Quebec,
Canada, November 20, 2011.

9. 園田節子「華僑史料論の試み：カナダに
おける史料収蔵・公開の過去と多文化主義の
現在」神戸華僑華人研究会第132回例会、兵
庫県神戸市・神戸中華総商會会議室、2011
年1月22日

10. 園田節子「北米華僑資料の保存・編集・
公開と現地マイノリティ」必要不可欠なアウ
トサイダーからみる地域像第3回研究会、東
京都・東京外国語大学、2010年12月18日

11. 園田節子「中国移民の移動のハブ地に
おける史料の残存と蓄積の調査研究」第6回
日本人の国際移動研究会、京都市・キャンパ
スプラザ京都、2010年11月20日

12. 園田節子「海外の中国人：支え生きる

工夫と空間」井植記念会垂水文化講座、兵庫
県神戸市・井植記念館ホール、2010年10月
18日

〔図書〕(計2件)

1. 共著 園田節子「容閔——米中間を揺ら
ぎ、上昇する境界者」村田雄二郎編『講座 東
アジアの知識人 第1巻』有志舎、2013年9
月出版予定、印刷中

2. 共著 園田節子「華人社会 華僑・華人」
『中国年鑑2012』2012年、pp.95-97.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

園田節子 (SONODA SETSUKO)

兵庫県立大学・経済学部・准教授

研究者番号：60367133